チュチェ思想問答

朝鮮民主主義人民共和国
外国文出版社
2025

チュチェ思想問答

朝鮮民主主義人民共和国
外国文出版社
2025

まえがき

チュチェ思想は、偉大な領袖金日成（キムイルソン）同志が創始し、偉大な指導者金正日（キムジョンイル）同志が全面的かつ総合的に体系化し、敬愛する金正恩（キムジョンウン）同志が時代の要請に即して絶えず発展させ豊富にしていく人民大衆中心の革命思想である。

チュチェ思想は史上初めて、人間中心の哲学的原理と人民大衆中心の社会・歴史原理、革命と建設の指導原則を明らかにすることにより、人間、人民大衆中心の世界観を確立して、人間、人民大衆の尊厳と価値を最高の境地に至らしめ、人類の世界観の発展に根本的な転換をもたらした。

偉大な思想は偉大な実践を生む。

朝鮮革命の全歴史は、時代を代表する思

想で自主時代の前途を明示する偉大な領袖を戴いてこそ、国と民族の尊厳も、強盛・繁栄もあるということを実証した歴史である。

チュチェ思想は、勤労人民大衆の総体的志向と念願を集大成しており、20世紀に次いで21世紀にもあらゆる搾取と抑圧のない社会、支配と従属、侵略と戦争のない、自由かつ平和な世界で生き発展しようとする世界の進歩的人民の闘争を力強く促すであろう。

目　次

1. チュチェ思想はどんな思想なのか

チュチェ思想とは一言で言って、革命と建設の主人は人民大衆であり、革命と建設を推し進める力も人民大衆にあるという思想である。言い換えれば、自己の運命の主人は自分自身であり、自己の運命を開拓する力も自分自身にあるという思想である。

チュチェ思想は、人間を中心に据えて人間の運命開拓の道を明示することを使命とする人間中心の世界観、人間中心の哲学思想である。

チュチェ思想は、人間中心の哲学的原理と人民大衆中心の社会・歴史原理、革命と建設の指導原則を基本内容としている。

2. チュチェ思想はどのようにして創始されたのか

チュチェ思想は、社会主義朝鮮の始祖金日成主席(1912～1994)によって創始された。

日本の植民地支配から朝鮮を解放するための闘争の道を踏み出した主席は、朝鮮革

命の新しい道を模索する中、チュチェ思想の起点をなす真理を発見した。
　主席は、自主時代、チュチェ時代の差し迫った要求と歴史発展の特殊性と革命の複雑さ、困難さから提起される朝鮮革命の実践的要求に基づいて、1930年6月、卡倫で共青及び反帝青年同盟の幹部会議を招集し、チュチェ思想の原理と朝鮮革命の主体的な路線を打ち出した。
　これは、自主時代の革命の指導思想であるチュチェ思想の創始とチュチェの革命路線の誕生を告げた歴史的出来事であった。

3. チュチェ思想の起点となる真理は何か

　チュチェ思想の起点の一つは、革命の主人は人民大衆であり、したがって人民大衆の中に入って彼らを教育し、組織化することによってのみ革命は勝利するということである。
　今一つは、革命は誰かの承認や指示によってではなく、自己の信念に基づき、自らの責任によって行うべきであり、革命で

持ち上がる全ての問題を自主的かつ創造的に解決していかなければならないということである。

4. チュチェ思想の哲学的原理は何か

チュチェ思想は、従来の哲学思想とは根本的に異なる、人間中心の新しい哲学的原理を明らかにしている。

チュチェ思想の哲学的原理は、世界における人間の地位と役割を解明したチュチェ思想の根本原理と、人間の本質的特性、世界に対する人間中心の見解と観点・立場を重要な内容とする。

5. チュチェ思想が新たに示した哲学の根本問題は何か

チュチェ思想が新たに示した哲学の根本問題は、人間を中心として提起された哲学の根本問題である。

従来は、物質と意識の関係問題が哲学の根本問題として提起され、論議されてきた。

チュチェ思想は、世界の始原に関する問

題が唯物論的に解明された前提の下で、世界で人間が占める地位と役割の問題を哲学の根本問題として新たに示し、世界の主人は誰かという問題に科学的な解答を与えた。

6. チュチェ思想の根本原理は何か

チュチェ思想は、哲学の根本問題である、世界で人間が占める地位と役割の問題に科学的な解答を与える根本原理を明らかにしている。

チュチェ思想の根本原理は、人間があらゆるものの主人であり、全てを決定するということである。

チュチェ思想の全ての体系と内容の基礎には、人間があらゆるものの主人であり、全てを決定するという哲学的原理が置かれている。

7. チュチェ思想で主人という概念の意味は何か

チュチェ思想で主人という概念は、周囲世界を自己の意思と要求に服従させながら生きる世界の支配者という意味と、自己の

運命を自己の意思と要求に即して切り開いていく担当者という意味を含んでいる。

8. 人間があらゆるものの主人というのはどういうことか

人間があらゆるものの主人というのは、人間が世界と自己の運命の主人だということである。

人間が世界の主人というのは、人間が周囲世界に従属して生きるのではなく、自己の意思と要求に即して世界を自己に奉仕させながら生きる存在だということである。

人間が自己の運命の主人というのは、人間が自己の運命に責任を持ち、自己の意思に基づいて運命を切り開いていく存在だということである。

9. 人間が全てを決定するというのはどういうことか

人間が全てを決定するというのは、世界を改造し自己の運命を切り開く上で、人間が決定的な役割を果たすということである。

人間が世界を改造する上で決定的な役割を果たすというのは、人間が世界を改造し変革することのできる大きな力を持っており、人間の活動が世界の発展を規制するということである。

人間が自己の運命を切り開く上で決定的な役割を果たすというのは、人間の運命開拓に影響を与える要因の中で、人間自身の活動が決定的な作用をするということである。

10. チュチェ思想によって明らかにされた、社会的存在とは何か

人間が社会的存在というのは、人間が社会的関係を結び、社会的な集団をなして生き活動する存在だということである。

世界において社会的存在は人間のみである。

人間が社会的存在というのは、自然的存在と区別するために使う言葉である。

社会的財産や社会的関係は社会的存在ではない。

もちろん、社会的財産や社会的関係は自

然には存在せず、社会的に創造され利用されるものである。社会的財産はあくまでも人間が社会をなして生き活動する過程で創造し、利用するものであり、社会的関係も人間が社会生活の要求から結び発展させていくものである。

世界で社会的関係を結び、社会的集団をなして生きる存在は人間のみである。そのため、世界で人間は唯一の社会的存在となる。

11. チュチェ思想によって明らかにされた、人間の本質的特性とは何か

人間が社会的存在というのは、人間の本質的特性に関する主体的な解明の出発点である。

人間の本質的特性は、他の物質的存在には見られない人間固有の特性である。

チュチェ思想は、人間が社会的存在であるという観点に基づいて、人間の本質的特性を科学的に解明した。

チュチェ思想が明らかにした人間の本質的特性は、自主性、創造性、意識性である。

12. 自主性とは何か

自主性は、世界と自己の運命の主人として自主的に生き発展しようとする、社会的人間の属性である。

自主性ゆえに、人間は自然と社会のあらゆる束縛・従属に反対し、全てのものを自己に奉仕するように変えていく。

自主性はまず、あらゆる束縛と従属に反対し、自由に生き発展しようとする人間の属性である。

また、世界の全てのものを自己に奉仕するように変えていこうとする人間の属性である。

自主性は、人間が自主的要求を提起し、それを実現していくことで表われる。

自主性を規定づける決定的要因は、自主的な思想意識である。

自主性を規定づける決定的要因が自主的な思想・意識であるというのは、人間が自主的な要求を提起し、その実現のためのたたかいを展開しうるか否か、自主的要求をどの程度提起し、その実現のためのたたか

いをどのように展開するかというのが、自主的な思想意識によって規定されるということである。

13. 自主性はなぜ人間にとって生命となるのか

人間にとって自主性は生命であると言うとき、それは社会的・政治的自主性のことである。

社会的・政治的自主性は、あらゆる社会的従属から抜け出し、国家と社会の真の主人として自主的に生き発展しようとする人間の性質である。

人間の自主性は、自然との関係、社会との関係、自分自身との関係で社会的人間の自主的志向と要求を反映する。社会的・政治的自主性は、社会・政治生活分野において社会的人間の自主的志向と要求を反映する。

社会的・政治的自主性が社会的人間の生命であるというのは、人間があらゆる社会的従属から抜け出し、社会の平等な主人としての政治的自由と権利を思う存分行使し

てこそ、人間らしく生きることができるということである。

社会的・政治的自主性はまず、社会的人間の尊厳と価値を決める基本的要因である。

また、社会的・政治的自主性を実現するのは、自然の主人、自分自身の主人として生きようとする人間本然の要求を実現するための先決条件である。

14. 創造性とは何か

創造性は目的意識的に世界を改造し、自己の運命を切り開いていく社会的人間の属性である。

創造性は、人間が創造的能力を持って創造的活動を展開することで表われる。人間が創造性を持っているというのは、自己の要求に即して自然と社会を改造することのできる創造的能力を持っていることを意味する。人間は創造的能力を持っているがゆえに、世界で最も有力な存在となり、自然と社会を自己にとって有用・有益なものに改造することができる。

創造性はまず、古いものを変革し、自然と社会を自己にとって一層有用・有益なものに改造していく人間の属性である。

また、絶えず新しいものを作り出し、自然と社会を自己にとって一層有用・有益なものに改造していく人間の属性である。

創造性は人間が創造的能力を持ってそれを発揮していくことで表われる。創造性を規定づける基本的要因は、科学技術知識である。

15. 意識性とは何か

意識性は、世界と自分自身を把握し改造する活動の全てを規制する、社会的人間の属性である。

意識性によって、人間は世界とその運動・発展の合法則性を把握し、自然と社会を自己の要求に即して改造し発展させていく。

意識性はまず、世界と自分自身を把握する活動を規制する社会的人間の属性である。

人間が客観世界の本質と運動・発展の合法則性、自分自身の要求と利害関係を把握する認識過程は、事象に対する受動的な反

映ではなく、意識性によって規制される目的意識的な過程である。

意識性はまた、世界と自分自身を改造するための活動を規制する社会的人間の属性である。

人間の認識活動と同様、実践活動も意識性によって規制される目的意識的な過程である。

意識性は、人間が自己の自主的要求と利害関係を実現する方向で自然と社会を改造・変革する実践活動を成功裏に行うように調整・統制する。

意識性は、人間が意識の調整・統制の下で目的意識的に活動することで表われる。

16. 自主性と自由はどんな関係にあるのか

自主性は、社会的存在である人間にとって生命となる最も本質的な属性であり、自由は、自主性の実現状態である。

人間は、自主性を持っているため、自然と社会の束縛と従属に反対し、世界の主人として自由に生き発展しようとする。

自主性は自由の基礎であり、自由は自主性の実現条件、自主的な生活を保障する条件である。

もし、人間に自主性がなければ自由という言葉自体もあり得ない。

自由は、自主性を生命、本質的属性としている人間にのみあるものである。

自主性という人間の性質がなければ自由もあり得ず、自主性を抜きにしては自由について語ることもできない。自由が大切であるということも、自主性が社会的人間の第一の生命であるという事実によってのみ説明できる。

自由が保障されなくては自主性を実現することができない。自由のない状態で自主性が実現し得ないのは自明の理である。

17. 自主的な要求と生理的要求はどう区別されるのか

自主的要求とは、あらゆる従属と束縛から抜け出し、世界と自己の運命の主人として生き発展しようとする要求である。

生理的要求とは、生命物質の生命を維持するために提起される必要性を表現したものである。

実際に、人間以外のいかなる生命物質も、自己の生命維持に必要な要因を意識的に提起することができない。

生命物質の生理的要求は持って生まれたもので固定不変である。

人間は自主的な存在であるが、人間もやはり生命有機体であるため、人間にとっても生理的要求について語ることができる。

人間にとって生理的要求は結局、人間自身の生命有機体を維持するためのものである。

人間の自主的な要求は、単に肉体的生命を維持しようとする要求ではなく、世界の主人として生き発展しようとする要求であり、持って生まれた要求ではなく、社会関係を結んで生き活動する過程で社会的、歴史的に形成・発展する要求である。それゆえ、自主的要求は生理的要求と根本的に区別される。

人間の社会生活と活動は、いつも具体的な条件と環境の中で一定の手段を持って行

われ、人間が自主的に生き発展するには、そのための手段と条件が整わなければならない。したがって、人間の自主的な要求はいつも具体的な対象との関係を通じて持つようになる要求である。

そのため、自主的な要求は、人間が何を相手にして持つかによってそれぞれ異なる具体的な内容を反映するようになる。

人間は、社会的実践活動と社会生活の過程で多種多様な対象と関係を結ぶが、それは自然と社会、自分自身との関係に大別することができる。

こうした見地からして、人間の自主的要求を自然の主人になろうとする要求、社会の主人になろうとする要求、自分自身の主人になろうとする要求に区分する。

18. 自主性と創造性、意識性はどんな関係にあるのか

人間の本質的属性である自主性、創造性、意識性は互いに区別されながらも緊密につながっている。

まず、自主性と創造性は緊密なつながりを持っている。

自主性を抜きにして創造性を発揮することはできず、創造性を抜きにして自主性を実現することもできない。

自主性は創造性を発揮させる要因であり、創造性は自主性の実現を保証する。

また、意識性は自主性と創造性の前提であり、保証である。

意識性が自主性と創造性の前提というのは、人間は意識性を持っていることから自主性と創造性も持つことができるということである。

意識性が自主性と創造性の保証というのは、人間の自主性と創造性は意識性によってのみ発揮されるということである。

19. 人間の創造的力を培う問題と人間の創造的役割を高める問題の相互関係は何か

人間の創造的力を培う問題と人間の創造的役割を高める問題は緊密につながっている。

人間の創造的力を培う問題が人間の創造

的能力である科学技術知識と技能、熟練を絶えず体得し向上させる問題であるなら、人間の創造的役割を高める問題はそれを最大限に発揮させる問題である。

しかし、人間の創造的な役割は高い創造的能力によって裏打ちされ、それによって保証される。

知識は力であるという言葉通り、人間は多くのことを知っていれば自己の責任と役割を果たし、知らなければ相応の威力を発揮することができない。

人間が創造的役割を高めて世界に対する支配と改造活動を成功裏に行うためには、創造的能力を絶えず向上させなければならない。

こうした意味からして、創造的能力は創造的役割を高めるための前提であり、保証であると言える。

20. 自主性と創造性、意識性が社会的属性となる根拠は何か

自主性と創造性、意識性は社会的・歴史的過程で形成・発展する人間の社会的属性である。

人間の自主性と創造性、意識性が社会的、歴史的に形成・発展する社会的属性であるというのは、社会的存在としての人間の出現と発展過程、言い換えれば人間の社会的活動と社会的関係の歴史的発展の過程を通じてのみ形成・発展する属性であるということである。

自主性と創造性、意識性は、人間の発達した有機体が生む属性ではなく、社会的実践活動とその過程で結ばれる社会的関係を通じて形成される属性であり、人間の社会的実践活動が深化し、社会的関係が発展するにつれて絶えず発展する属性である。

21. チュチェ思想によって明らかにされた、世界に対する観点と立場は何か

チュチェ思想は人間を中心として世界に対する観点と立場を明らかにした。

チュチェ思想が明らかにした世界に対する観点と立場は、人間を全ての認識と実践活動の中心に据える観点と立場、全てのことを人間を中心にして考え、人間に奉仕さ

せる人間中心の観点と立場である。

チュチェ思想が明らかにした世界に対する観点と立場には、二通りの内容が含まれている。

一つは、人間の利益の見地で世界に対する観点と立場であり、もう一つは、人間の活動を基本として世界の変化・発展に対する観点と立場である。

22. チュチェ思想によって明らかにされた、世界の本質は何か

チュチェ思想によって解明された世界の本質は、世界が人間によって支配され、改造されるということである。

世界は物質からなっており、絶えず変化・発展するというのは、従来の哲学発展の段階で解明された物質世界の一般的特徴である。

チュチェ思想は、物質世界の一般的特徴が解明された状況の下で、今日の世界が人間との関係でどんな特性を持って存在し、変化するかということを世界の本質に関す

る問題と見なし、それに対する解答を与えた。

人間との関係から見ると、世界の本質問題は、世界が人間とどんな関係にあるのかという問題である。世界は人間とそれを取り巻いた周囲世界からなっているので、世界の本質問題はすなわち人間と周囲世界との問題に帰着する。

世界が人間によって支配され、改造されるというのは、人間を中心に捉え、人間との関係において明らかにした世界の本質的特徴である。

23. 世界の本質に関する主体的な見解の独創性は何か

世界の本質に関する主体的な見解の独創性は何よりも、史上初めて人間が出現した以後、新しく変化した世界の本質的特徴を解明したところにある。

世界の本質に関する問題は、世界観の基本内容をなすので、歴史的に数多くの哲学が世界の本質を解明することを重要な問題

と見なして論議した。しかし、いかなる哲学も世界の本質を正確に解明することはできなかった。

マルクス主義哲学は、物質世界の一般的特徴を示したが、人間の生きている今日の世界の本質的特徴を解明することはできなかった。

人間が物質世界に出現した以後、世界の様相は根本的に変わった。

人間が出現した以後、自然的存在の単なる相互作用とは根本的に異なる新しい関係が世界を特徴づけるようになった。

その新しい関係とは周囲世界と人間との関係である。

人間の出現により、人間と世界との間には支配し支配され、改造し改造されるという、従前には見られなかった関係が生じたのである。

チュチェ思想は、人間を中心に据え、人間と周囲世界との間に成立する本質的関係を明らかにすることによって、人間が出現した以後の世界の本質的特徴を解

明した。まさにここに、世界の本質に関する主体的な見解の独創性の一つがある。

世界の本質に関する主体的な見解の独創性は次に、人間の本質的な特性に関する科学的解明に基づいて世界の本質を解明したところにある。

従来の哲学が人間を中心に世界の本質を明らかにすることができなかったのは、人間に対する科学的理解を確立できなかったことに大きく関わっている。

人間を自主性と創造性、意識性を持った社会的存在と見ず、物質によって統一されている世界の一部と見る状況の下では、世界と人間との関係問題が正しく設定・解明されることができなかった。

チュチェ思想は史上初めて、人間の本質的な特性を明らかにした上で、人間と世界の本質的関係を解明することで、世界の本質に関する見解を科学的に解明した。

こうして、世界が人間によって支配・改造されるという世界の本質的特徴が完璧に解明された。

24. チュチェ思想の根本原理と世界の本質に対する主体的な見解は、どのような側面で区別されるのか

世界の本質とチュチェ思想の根本原理は密接につながっている。

チュチェ思想の根本原理が世界と人間との関係問題に解答を与えた原理であるなら、世界の本質は、世界の基本的特徴、様相に関する理解である。

チュチェ思想の根本原理が哲学の全般に貫かれていながら当該の哲学思想の真髄をなす原理であるなら、世界の本質を解明した原理は、哲学的世界観の重要な原理である。

チュチェ思想の根本原理が哲学思想の世界観的基礎であるなら、世界の本質はそれによって解明された原理である。

そのため、チュチェ思想では人間があらゆるものの主人であり、全てを決定するという原理をチュチェ思想の根本原理とし、世界が人間によって支配・改造されるということを世界の本質に関する主体的な見解として規定づけたのである。

25. 世界が人間によって支配されるというのはどういうことか

世界が人間によって支配されるというのは、周囲世界と人間との関係でどちらが主人の地位にあるかということを解明した原理である。

世界が人間によって支配されるというのは、周囲世界の事象が人間の自主的要求と利益の実現に利用・服従されるということである。

これは、人間を中心に据えて人間と周囲世界の本質的関係の一側面を明らかにしたものである。

人間が出現する以前の世界には、いかなる支配と服従の関係もなかった。

当時の世界は自然だけでなっており、それらは単に互いに依存し制約する関係にあった。

その時の世界には、他のものを支配する存在も、周囲世界と主動的な関係を結んでそれを自己に服従させていく存在もなかった。

しかし人間は、世界の単なる一部分ではなく、世界で最も優れた、有力な特出した存在、自主的存在であるため、世界が人間によって支配されるようになる。

世界が人間によって支配されるというとき、それは世界のあらゆる事象が現実的に人間によって支配されるということを意味するのではない。

世界には、人間の支配の外にある事象が無数である。

しかし、これらの事象も歴史の発展過程で人間の自主的要求と創造的能力が高まるにつれて全て人間に支配されるようになり、また人間の支配領域はさらに拡大して、人間の支配の外にあった事象も絶えず人間に支配されるようになる。

世界の全ての事象が人間の自主的要求と利益の実現に利用・服従されるという意味で、世界は人間によって支配されるというのである。

26. 世界が人間によって改造されるのはなぜか

それは人間が創造性を本性とする創造的な存在であるからである。

世界が人間によって改造されるというのは、周囲世界の事象が人間の目的意識的な活動によって、人間の要求に即して改造されるということである。

世界の改造者として表現される属性がまさに創造性であり、人間以外のいかなる存在も世界を人間のための世界として目的意識的に改造できず、またそのような能力もない。

もちろん動物にも、生存し発展することのできる生活能力はあるが、それはあくまでも自然的に与えられた条件を利用して生存し発展する本能である。

いかに「発達した動物」であっても、自然的存在には創造的能力がなく、世界を改造する役割も果たせない。

これとは異なり、人間は自然的に与えられた周囲世界の環境と条件を利用するのは言うまでもなく、目的意識的に周囲世界の

本質とその運動の法則を把握し、それを自己により必要なものとして主動的に改造して利用する。

このように、人間は創造性を本性としているので、世界を人間のための世界に、人間によりよく奉仕する世界に改造し変革していくのである。

27. チュチェ思想によって明らかにされた、世界の変化・発展の合法則性とは何か

チュチェ思想は、人間を中心に据えて世界の変化・発展の合法則性を新たに解明している。

チュチェ思想によって明らかにされた世界の変化・発展の合法則性とは、人間による世界の支配と改造・発展の合法則性である。自然と社会の発展は本質上、世界の支配者、改造者としての人間によって成立する改造・変革である。それゆえ、世界発展の合法則性はすなわち人間による世界の支配と改造・発展の合法則性である。

人間による世界の支配と改造・発展の合

法則性は、世界を支配し、改造・変革していく人間の活動と自然や社会の発展の間に成立する本質的かつ必然的なつながりを反映する。

チュチェ思想によって明らかにされた世界発展の合法則性は、人間の積極的活動による世界の発展、人間に奉仕する方向への世界の発展、人間の発展に伴う世界の加速的発展を内容とする。

28. 世界が人間の積極的な活動によって改造されるというのはどういうことか

世界が人間の積極的な活動によって改造されるというのは、人間による世界の支配と改造・発展の根本要因を示した合法則性である。

また、世界が人間の自主的・創造的・意識的活動によって、人間のための世界に改造されるということである。

世界はおのずと人間のための世界に改造されず、人間以外のいかなる存在も世界を改造することができない。

人間は、自己の要求と現実的条件を考慮した上で、世界の支配と改造・発展のための対象を選び、目標と課題、手段と方法を規定する。

人間は、世界の支配と改造・発展を計画するばかりでなく、あらゆる条件と可能性を引き出して世界の改造・発展のための闘争を展開する。

もちろん、世界の支配と改造・発展の過程にはいろいろな物質的手段も参加する。これらの物質的・技術的手段は、世界を支配し改造する上で人間の役割を強めるので無視することはできない。

しかし、世界の支配と改造・発展の過程にどんな物質的・技術的手段が参加し、それがどんな影響を及ぼすかというのは、まさに人間の活動と役割にかかっている。

29. 人間による世界の改造・発展と周囲世界の発展の相互関係は何か

人間による世界の改造・発展は、周囲世界が自己の固有の合法則性にしたがって変

化・発展することを前提とする。
人間による世界の改造・発展は、周囲世界の全ての事物が一定の合法則性にしたがって変化・発展する場合にのみ可能である。
しかし、周囲世界の運動と変化・発展はそれ自体としては何の意味もなく、ひたすら人間の目的意識的な活動を通じてのみそれが正しく認識・利用されて世界の改造・発展に影響を及ぼす。
それゆえ、世界の改造・発展で決定的な作用をするのは、創造的存在である人間の目的意識的な活動であり、これを抜きにしては世界の改造・発展について考えられない。

30. 世界が人間に奉仕する方向へ発展するというのはどういうことか

世界が人間に奉仕する方向へ発展するというのは、自然と社会が人間の自主性がよりよく実現する方向へ改造されていくということである。
人間に奉仕する方向への世界発展の法則

は、世界発展の基本的方向を明らかにした法則であり、人間の活動と世界発展の方向の間の必然的連関を反映する。

人間に奉仕する方向へ発展していくのは、人間との関係で必然的に成立する世界発展の特徴である。

まず、人間の活動が作用すると、自然発生的に変化していた自然は必然的に人間に奉仕する方向へ改造されていく。

また、社会も人間の活動が強化されるにつれ、人間に奉仕する方向へ改造されていく。

人間の全ての活動は自主性の実現を目的とし、絶えず高まる自主的要求を実現する方向へ志向しているため、人間によりよく奉仕する方向へ世界が発展するのは世界発展の基本的方向となる。

31. 人間の発展に伴う世界の加速的発展とはどういうことか

世界は人間の発展に伴って加速的に発展する。

人間の発展に伴って世界が加速的に発展

するというのは、人間の自主的な思想意識と創造的能力の急速な発展に伴って、世界がより速く発展していくということである。

世界が加速的に発展するのは、人間との関係で必然的に成立する世界発展の特徴である。

まず、自然を征服する人間の創造的力が急速に成長するにつれ、自然はより速く改造・変革される。

また、社会も人間の社会改造の能力が速く発展するにつれて加速的に発展する。

世界が人間によって加速的に発展するのは、世界の支配者、改造者である人間が加速的な発展能力を持っているからである。

32. 世界はなぜ、必ず人間の発展に伴って改造されていくのか

人間の発展とは一言で言って、自主的な思想意識と創造的能力の発展である。

世界の支配と改造・発展は必ず、人間の発展水準と速度に即して行われる。言い換

えれば、人間の発展を抜きにした世界の支配と改造・発展、人間の発展水準に先だって行われる世界の支配と改造・発展とはあり得ない。

　人間の発展速度はすなわち人間の活動が積極化する速度であり、世界発展の速度である。

　人間は周囲世界の他の物質的存在と違って急速に発展し、そのための能力を持っている。

　人間は自然を改造し、社会を発展させると同時に、自身をより有力な存在に発展させる。

　人間は、世界を改造・変革する創造的活動の過程でより高い自主的要求を提起するとともに、より豊かな科学技術知識と技能を身に付け、社会的協力をより緊密化するようになる。

　人間は、日増しに増え新しく更新される物質的・技術的手段に依拠して、自己の創造的活動をさらに強化していく。

　このように、人間が発展して世界の支配

と改造・発展で果たす役割がより強まる過程で、世界の支配と改造・発展の水準は一層高まり、その速度はますます速くなるのである。

33. 人間の利益の見地で世界に対するというのはどういうことか

人間の利益の見地で世界に対するというのは、全てが世界の支配者である人間によりよく奉仕するようにする立場で世界に対処するということである。

言い換えれば、全てを人間の利益を基準として分析・評価し、全ての活動において人間の自主的権利と利益を守ることを最高の原則とするということである。

34. 人間の利益の見地で世界に対する上での基本的要求は何か

人間の利益から出発する観点と立場の基本的要求は、人間の活動の結果が活動目的とその実現過程によって規定されるということに基づいて設定された。すなわち、全ての活動において人間の利益を徹底的に

実現するためには、活動目的が人間の利益の立場から規定され、活動過程がそれに即して行われなければならないという立場から、人間の利益から出発する観点と立場の基本的要求が定立された。

人間の利益の見地で世界に対する観点と立場の基本的要求の一つは、人間の利益の立場から認識活動と実践活動の目的を規定し、実現することである。

人間の利益の見地で世界に対する観点と立場の基本的要求のもう一つは、認識活動と実践活動で提起されるあらゆる問題を、人間の利益を実現することに服従させて解決することである。

35. 人間の活動を基本として世界の変化・発展に対応するというのはどういうことか

人間の活動を基本として世界の変化・発展に対応するというのは、世界の改造者である人間の能動的役割に基づいて世界の変化・発展に対応するということである。

言い換えれば、世界の改造・変革におけ

る人間の役割を決定的要因と見なし、人間の創造的知恵と力に依拠してあらゆる問題を解決するということである。

世界を改造・変革していく決定的要因はあくまでも人間であり、人間だけが世界を改造することができる。世界の改造を要求し、世界を改造できる力を持っているのもほかならぬ人間である。

客観的要因はあくまでも人間によって認識され、利用されるときにのみ、世界の改造・変革に作用することができる。

客観的条件は不利であっても、人間が切実に要求し、能力さえ十分に整っていれば、いかなる改造・変革も十分に実現することができる。

36. 人間の活動を基本として世界の変化・発展に対応する観点と立場の基本的要求は何か

人間の活動を基本として世界の変化・発展に対応する観点と立場の基本的要求の一つは、全ての活動において人間をより強力な存在に育てることを第一の工程とするこ

とである。
　自然と社会の改造・変革において人間の活動がどのぐらい強まるかということは、人間の自主意識と創造的能力の水準によって規定される。
　人間をより強力な存在に育てる活動を第一の工程とする上で基本は、人材を育成する活動、教育活動に優先的な力を入れることである。
　人間の活動を基本にして世界の変化・発展に対応する観点と立場の基本的要求の今一つは、世界の改造・変革で提起されるあらゆる問題を、人間の創造的役割を高める方法で解決することである。
　人間の創造的役割を絶えず高める基本方法は、思想活動、政治活動を強化することである。

37. チュチェ思想によって明らかにされた、社会・歴史原理は何か

　チュチェ思想によって明らかにされた社会・歴史原理は、人間中心の哲学的原理に

基づいたもので、社会・歴史の主体は人民大衆であり、社会的・歴史的運動は人民大衆の自主的・創造的・意識的な運動であるという原理である。

チュチェの社会・歴史原理で最も基本的なものは、人民大衆は社会・歴史の主体という原理である。

38. チュチェの社会・歴史原理と唯物史観の原理の差異は何か

チュチェ思想は、史上初めて人間中心の哲学的原理を社会・歴史に具現して人民大衆中心の社会・歴史原理を確立した。

チュチェ思想の社会・歴史原理は、自然と根本的に区別される社会固有の特徴、自然の運動と根本的に区別される社会的運動固有の合法則性を明らかにしている。

しかし唯物史観の原理は、唯物弁証法の原理を社会と社会・歴史に適用したものである。

そのため、唯物史観の原理は、社会も自然のように客観的実在であり、社会的運動

は自然史的過程であると説いた。
　唯物史観の原理によっては、自然と社会、自然の運動と社会的運動の共通性は説明できるが、社会の本質と社会的運動固有の合法則性は説明することができない。

39.「主体」という言葉の意味は何か

　「主体(チュチェ)」は、チュチェ思想の基本範ちゅうとして、世界を支配し改造するための活動を主動的かつ目的意識的に展開する直接の担当者、この活動を促す基本的要因を意味する。
　以前、主体問題は主にある存在と運動の基礎、担当者という立場から論議されてきた。
　主体という言葉は、単に何かの基礎、運動の担当者ではなく、歴史発展の主人、担当者として社会的・歴史的運動を起こし、推し進める決定的要因、すなわち社会的運動の発展を主動的に促し、それに参加するあらゆる要因の作用を規制する決定的要因を意味する。
　チュチェ思想において主体は、第一に、

哲学的世界観の出発的基礎を表現する範ちゅうとして使われている。
チュチェの哲学的原理で主体は何よりも、世界を認識し改造する担当者としての人間を表現する範ちゅうとして規定された。
チュチェの哲学的原理では、人間を主体と規定しただけでなく、人間が自主性と創造性、意識性を持つ社会的存在であることを解明することにより、人間が主体となる根拠を明らかにし、主体の活動の特性まで全面的に解明して主体の範ちゅうを完成した。
チュチェの哲学的原理で主体はまた、人間を中心に据えて明らかにした原理と見解、観点、さらには哲学的世界観全体を特徴づける範ちゅうとして使われている。
主体思想において主体は第二に、社会・歴史原理の基礎の範ちゅうとして使われている。
チュチェの社会・歴史原理において主体は、歴史の創造者、社会的運動を起こし、推し進める担当者、原動力である人民大衆

を表現する範ちゅうである。
　チュチェの社会・歴史原理は史上初めて、社会的運動には主体があるということを明らかにし、自主性と創造性、意識性を体現した社会的集団であり、社会的運動の原因と原動力の体現者である人民大衆が社会的運動、歴史の主体となるということを論証した。そして、社会的運動における人民大衆の地位と役割、その強化・発展の合法則性を深く解明した。
　チュチェの社会・歴史原理は特に、歴史の主体、社会的運動の主体が歴史の自主的な主体、革命の自主的な主体として発展する合法則性、歴史の自主的主体、革命の主体の本質を新たに解明することにより、社会的運動の主体に関する最も科学的な理解を完成した。
　主体思想において主体は第三に、チュチェ思想全般を表したり、その要求を具現するための原則を表現する範ちゅうとして使われている。
　チュチェ思想全般とその要求を具現する

ための原則を意味する場合には、主体性を確立するという術語で表現する。

主体性を確立するというのは、広義では革命と建設の各分野においてチュチェ思想を徹底的に具現するということを意味し、狭義ではチュチェ思想の指導原則を具現するということ、特に革命と建設に対する主人としての態度をとり、自主的立場と創造的立場を堅持するということを意味する。

40. 社会は何をもって構成されているのか

チュチェ思想は、人間を社会の最も重要な構成部分と見なし、社会をなしている他の構成部分とその相互関係を明らかにすることによって、社会に関する最も正しい理解を与える。

社会とは一口に言って、人間の集団である。言い換えれば、人間が社会的財産を持ち、社会的関係を結んで生きる集団がほかならぬ社会である。

社会の構成部分には人間と社会的財産、社会的関係が含まれる。

41. 社会的関係はなぜ、社会的存在を特徴づける重要な表徴となるのか

人間は、社会的関係を結んで生きるため、世界の最も有力な存在となる。

人間は、社会的関係を結ぶことによって、社会的集団をなして生活することができる。

社会的関係がなければ社会的集団は存在し得ない。

個々人の力と知恵は微力で限界があるが、社会的集団の力と知恵は威力で無限である。

人間は、集団の力と知恵によってのみ自己の生存を保障し、発展することができる。

人間は社会的関係を結ぶことによって、社会的集団をなすことができ、集団の一構成員として生きながら世界を認識し、改造していく社会的存在として生きることができる。

また、他の人間との社会的連係を保ち、互いに経験と知識も交流することができる。

人間は社会的連係を通じて今の世代だけ

でなく、以前の世代と次の世代の人間とも一定の連係を保ちながら、歴史的に形成された先進的な思想と科学技術知識、経験を体得したり、多様な物質的・文化的財産を合理的に利用したりしながら世界と自己の運命を切り開いていく。
　社会的関係を抜きにしては、人間の社会的活動が行われることができず、世界で最も有力な存在、世界の主人として生きることもできない。

42. 人間が社会の主要な構成要素となる根拠は何か

　社会は、自然と違って人間を抜きにしては存在することができない。
　自然の悠久の進化過程で人間が出現することによって、自然だけであった世界に社会が生まれ、世界は自然と共に社会を包括するようになった。
　人間の出現はすなわち社会の発生であり、人間を離れた社会とはあり得ない。
　集団をなし、集団生活をするのは、社会

的存在である人間固有の生存方式である。人間は集団をなし、集団的な活動を通じてのみ生存することができ、世界に対する支配と改造を実現することができる。

自己の生存と発展のために集まった人々の集団というところに、自然と区別される社会の本質的特徴がある。

それゆえ、人間は社会の最も重要な構成部分である。

43. 社会的関係とは何であり、それが社会の存立と発展で必須の条件となる理由は何か

社会的関係は、社会生活の過程で結ばれる人間相互間の関係である。

人間が集団をなして集団的な活動、社会生活をするためには、必ず一定の秩序がなければならない。社会は、多くの人間からなっており、人間は集団的に結ばれて共同で社会生活をする。

人間が互いに結ばれて社会生活をする過程では、人間の間に必ず一定の秩序が生じ

るようになるが、それがまさに社会的関係である。

社会的関係は、どんな社会生活の分野で結ばれる関係であるかによって、政治的関係、経済的関係、思想的・文化的関係に区分される。

社会的関係が社会の存在と発展の基本条件となるのは、人間の集団がこの社会的関係によってのみ形成・発展するからである。

人間は社会的関係の中で生活し働くときにのみ、社会をなし、集団の力を発揮して社会を発展させることができる。

44. 人間が社会の主人となるのはなぜか

社会の主人は人間である。

人間が社会の主人というのは、人間が社会的財産と社会的関係の主人であるということである。

社会的財産を要求するのも人間であり、それを創造する能力を持っているのも人間である。人間を抜きにしてはいかなる社会

的財産も創造されず、また創造された社会的財産は人間のために奉仕するときにのみ価値がある。

社会的財産は、生活上の要求を実現するための人間の創造的活動によってのみ作り出され、改造される。

一方、人間は自己の生存と発展のために主動的に社会的関係を結び、それを不断に改造していく。

人間は、社会的関係によってのみ生き発展することができるため、必然的に社会的関係を求めるようになり、目的意識的に社会的関係を結んで生きるようになる。性格と水準、内容においては差があるが、いかなる社会的関係もそれはみな人間によって結ばれ、改造されるという点では共通している。

人間の自主的要求と創造的能力が高ければ高いほど、より先進的な社会関係が結ばれる。

このように、人間は社会的財産と社会的関係の主人であるため、社会の主人となるのである。

45. チュチェ思想によって明らかにされた、歴史の主体とは何か

人民大衆は歴史の主体である。

人民大衆が歴史の主体というのは、歴史の中心に人民大衆が立っており、人民大衆によって社会的・歴史的運動が行われるということである。

46. 歴史の主体に関する問題の内容は何か

歴史の主体問題は、社会的・歴史的運動を目的意識的に起こし、推し進める担当者に関する問題である。

この問題は、具体的に二つの本質的内容を含めている。

その一つは、社会的・歴史的運動を主動的に起こし、推し進める担当者がいるのか否かということである。言い換えれば、社会的・歴史的運動も自然の運動のように物質の相互作用によって行われる盲目的な運動であるか、それともいかなる担当者によって目的意識的に行われる運動であるのかという問題である。

この問題をいかに解決するかによって、自然の運動と区別される社会的・歴史的運動固有の合法則性があるのか否かという問題が規定される。

もう一つは、社会的・歴史的運動に主体があるなら、それは誰なのかということである。

この問題をいかに解決するかによって、社会発展の合法則性をはじめとする社会・歴史観の全般内容が規定される。

チュチェの社会・歴史観は、人民大衆を歴史の主体と見なすことによって、社会発展固有の合法則性を人民大衆を中心にして科学的に解明した。

47. 人民大衆とはどんな社会的集団なのか

人民大衆とは、働く人々を基本にして、自主的要求と創造的活動の共通性によって結合した社会的集団である。

自主的に生きようとする要求を持ち、自然と社会と人間を改造する創造的活動に参加する人間の集団がまさに人民大衆である。

人民大衆の構成で基本をなすのは働く人々である。

働く人々とは、自己の創造的活動で社会発展に実質的に寄与する階級と階層である。

人民大衆の中で働く人々が基本的勢力をなすという意味で、人民大衆を勤労人民大衆とも言う。

48. 人民大衆の構成員かどうかを判別する尺度は何か

人民大衆の構成員かどうかを判別する基本的尺度は、その社会的・階級的基盤がどんなものであるかにあるのではなく、どのような思想を持っているかにある。

各階層の人々を人民大衆として結合させる思想的基礎は、社会主義・共産主義思想と共に、愛国、愛民、愛族の思想である。

人民大衆の構成員かどうかを判別するには、社会的・階級的立場を見なければならないが、それを絶対視してはならない。

人間の思想は社会的・階級的立場の影響だけを受けるのではなく、革命的影響を

受け、社会主義・共産主義思想を体得すれば、社会的・階級的立場はどうであれ、人民大衆に奉仕することができる。

愛国、愛民、愛族の思想は、社会的人間なら誰でも受け入れられる最も普遍的な思想である。

愛国、愛民、愛族の思想を持つ人なら、誰でも祖国と人民、民族に奉仕することができ、人民大衆の一員になることができる。

49. 人民大衆が歴史の主体となる根拠は何か

人民大衆が歴史の主体となるのは、人民大衆によって社会のあらゆるものが創造され、歴史が発展するからである。

社会的運動の担当者の重要な表徴は、社会のあらゆるものを創造し、発展させるところにある。社会の存立と発展に必要なあらゆるものを創造し、発展させる社会的運動の担当者だけが歴史の主体になりうる。

社会をなしている各階級・集団の中で、社会的財産を創造し、社会的関係を改造・前進させる集団は人民大衆だけである。

まず、人民大衆は自然を改造し、生産力を発展させ、物質的富を創造する。

また、人民大衆は思想的・文化的財産を創造し、社会的関係、社会制度を改造・変革する。

50. 歴史の自主的な主体、社会的・政治的生命体、革命の主体はどんな関係にあるのか

歴史の自主的な主体は、歴史と自己の運命を自主的に、創造的に切り開く人民大衆を歴史の主体一般と区別して使う言葉である。

歴史の自主的な主体は、領袖、党、大衆が組織的、思想的に、道義的に結合して永生の自主的な生命力を持つ社会的・政治的生命体である。

社会的・政治的生命体は、自主的な生命力を持つ社会的・政治的集団である。

人民大衆は、党の指導の下に領袖を中心にして組織的、思想的に結集することによって、永生の自主的な生命力を持つ一つの社会的・政治的生命体をなすようになる。

革命の主体は、高い自主意識を持って政治

的に準備された人民大衆、革命勢力である。

人民大衆は、党と領袖の指導によってのみ、自己の運命を自主的・創造的に切り開く歴史の自主的な主体となり、このような人民大衆は、領袖の周りに一つに結集し渾然一体をなした社会的・政治的生命体である。

結局、歴史の自主的主体、社会的・政治的生命体、革命の主体はいずれも、領袖、党、大衆の統一体として同一関係にある。

51. 人民大衆が歴史の自主的な主体となりうる社会的・階級的要因は何か

人民大衆が歴史の自主的な主体となるための社会的・階級的要因は、先進的な労働者階級の出現である。

人民大衆が歴史の自主的な主体となるためには、人民大衆をなす各階級・階層の中で人民大衆の思想的、組織的準備程度に質的変化をもたらすことのできる最も先進的かつ革命的な階級が出現しなければならない。

労働者階級は自分自身だけでなく、人民大衆の自主性を完全に実現することを歴史

的使命とし、それを実現する革命的能力を持った階級である。

労働者階級は、集団主義を最も高い水準で体現しており、団結力と組織性、革命性の強い階級である。

労働者階級のこのような特性からして、人民大衆は歴史の舞台に先進的労働者階級が出現した後、労働者階級の革命思想によって意識化、組織化されるとき、歴史の自主的な主体として発展するようになる。

52. 人民大衆を歴史の自主的な主体とならせる決定的な要因は何か

人民大衆を歴史の自主的な主体とならせる決定的な要因は、卓抜した領袖の指導である。

人民大衆が歴史の自主的な主体となるためには、正しい指導を受けなければならない。

人民大衆がいかに革命的に意識化、組織化され、自己の責任と使命をいかに遂行するかということは、正しい指導を受けるか

どうかにかかっている。

領袖は、人民大衆の要求と志向を反映した科学的な革命思想と戦略・戦術を提示し、党を通じて人民大衆を革命思想で武装させることによって彼らを意識化する。

領袖は、労働者階級の党を創立し、各政治組織を結成して、それに各階層の広範な大衆を結集させて人民大衆を一つの戦闘隊伍に準備させる。

領袖は、歴史の主体をなす各階級・集団の中で革命の中核勢力を推し立て、それを手本にして人民大衆が歴史の自主的な主体としての思想的・精神的品格を十分に備えるようにし、いかに困難な条件と環境の下でも歴史の自主的な主体としての地位を確固と占めてその役割を果たすようにする。

53. 歴史の自主的主体の特徴は何か

歴史の自主的主体は第一に、領袖を中心とする党と人民が強固に結合した統一体である。

歴史の自主的主体は、その結合の強固さ

において他の全ての社会的集団と根本的に区別される。

歴史の自主的主体は、党と人民が領袖の革命思想に基づいた思想的、意志的、組織的団結をなし遂げ、革命的信義と同志愛によって固く結集した強固な道義的統一体である。

歴史の自主的主体は第二に、永生の自主的な生命力を持つ社会的・政治的生命体である。

歴史の自主的主体の生命力は、党と領袖の賢明な指導と人民の底知れない力が結合した無限大の生命力であり、人民大衆の自主性を完全に実現できる強力な生命力である。

54. 社会的・歴史的運動が人民大衆の自主的運動というチュチェの社会・歴史原理が解明されたのはどんな意義を持つのか

まず、社会・歴史発展の根本方向が解明された。

すなわち、社会・歴史はその主体である

人民大衆の自主性が実現する方向へ発展するということが明らかになった。

　また、社会・歴史発展の最終目的は何であるかが解明された。

　すなわち、社会・歴史発展は人民大衆の自主性の完全な実現にその最終目的があり、したがって社会発展、革命は搾取社会を一掃し、社会主義制度を樹立することで終わるのではなく、人民大衆の自主性が実現した社会を建設することによってのみ、自己の最終目的を達成することができるということが明らかになった。

55. チュチェ思想によって明らかにされた、社会的・歴史的運動の本質的特性は何か

　チュチェ思想は、社会・歴史の主体に関する科学的解明に基づいて社会的・歴史的運動の本質的特性を新たに解明している。

　社会的・歴史的運動の本質的特性は、人民大衆の自主的・創造的・意識的な運動であるというところにある。

56. 社会的・歴史的運動が人民大衆の自主的な運動というのはどういうことか

社会的・歴史的運動が人民大衆の自主的な運動というのは、それが人民大衆の自主性を実現することを根本的目的とし、人民大衆自身が責任を持って自力で遂行する活動であり、闘争であるということである。

社会的運動は、人民大衆の自主性を実現することを根本的目的として起こり、人民大衆の自主性が実現する方向へ発展する人民大衆の自主的な運動である。

自主性を実現するための闘争は、自然と社会の全ての領域で展開される非常に幅広くて壮大な活動であり、自主性を蹂躙する勢力との厳しい闘争を伴う困難かつ複雑な活動である。

自然と社会を改造し、自己の運命を開拓するための闘争を担当・遂行する能力は人民大衆自身にのみある。

自然と社会、人間を改造・変革する上でなし遂げられた全ての成果は、まさに人民

大衆の力と知恵によって収められた歴史的結果である。

57. 人民大衆の自主性のための闘争が絶え間なく続くのはなぜか

人民大衆の本性的要求、自主的な要求は日を追って高まっている。

自主性のための人民大衆の闘争によって人民大衆の自主性が実現し、その結果、人民大衆の自主性はより高い水準で提起される。人民大衆の自主性の実現に対する要求が高まるほど、社会的運動が積極的に繰り広げられるようになる。

歴史の流れにそって人民大衆の中でも世代が交代する。

人民大衆の各世代は、自主性のための歴史的進軍で自己の使命を誠実に果たしてきた。

歴史の遠い将来に人民大衆を代表する世代も、引き続き自主の道を前進するであろう。それは、自主性が人民大衆の変わることのない本性であるからである。

社会的・歴史的運動の発展と共に、自

主性に対する人民大衆の志向と熱望はより一層強まり、それにしたがって自主性を実現するための闘争はますます発展していくであろう。

人民大衆が自主性を要求し、自主の道を進む歴史発展の流れは何をもってしても阻むことができない。

58. 人民大衆の自主的運動はどのような形態で行われるのか

人民大衆の自主性のための闘争の基本的内容は、社会改造と自然改造、人間改造である。

人民大衆は社会的従属と自然の束縛、古い思想と文化の束縛から解放されてこそ、自主性を完全に実現することができる。それゆえ人民大衆の自主性のための闘争は、社会改造、自然改造、人間改造の全ての領域で全面的に行われる。

59. 社会の改造はどんな事業なのか

人類社会の長い歴史の過程で、人民大衆は社会的従属から自らを解放するためにた

ゆみなくたたかってきた。
　社会の改造は、人民大衆が階級的及び民族的従属から抜け出し、自主的な生活を享受しうる社会的・政治的条件をつくるための闘争、人民大衆の地位と役割を強められるように社会関係を発展させていく活動である。

60. 自然の改造はどんな事業なのか

　自然の改造は、人民大衆が自然の束縛を振り切り、自主的な生活を享受しうる物質的条件をつくりあげるための闘争であり、活動である。
　人間が生き、発展するためには、必ず自然に働きかけて物質的財産を作り出さなければならない。物質的財産は、人間の生存と社会の発展のための必須の条件であり、その源は自然にある。
　人間は自然を改造し征服してこそ、自然の束縛から解放され、自主的な生活を享受しうる物質的条件をつくることができるのである。そのため、自主性を実現するための人民大衆の社会的運動は、自然を対象に

物質的財産を創造し、有利な自然環境をつくるための自然改造活動を内容とするのである。

61. 人間の改造はどんな事業なのか

人間を改造する闘争は、人民大衆が古い思想・文化の束縛を振り切り、自主的な生活を享受しうる思想的・文化的条件をつくるための闘争である。

人間は古い思想・文化の束縛を振り切り、自主的な思想意識と健全な文化の所有者になってこそ、自己の運命を自分自身が掌握し開拓していくことができ、自主的な存在として真に生き、活動することができる。

62. 社会発展過程において3大改造事業はどのような順序で進められるのか

3大改造事業の歴史的な順序は、革命の発展段階によってさらに前面に提起される分野がどの分野であるかという問題である。

3大改造事業の三つの分野が密接な連関の中で統一的に発展するからといって、この3

大改造事業が人間の社会的活動においてどの時期を問わず同等の位置を占めるのではない。
　革命の発展段階によって、3大改造事業の中でさらに前面に提起される改造事業があるものである。
　搾取社会では、社会的・政治的自主性を実現するための社会改造が前面に提起され、遂行される。
　社会主義社会では自然改造、人間改造が前面に提起され、遂行される。

63. 人民大衆の自主性を目指すたたかいが国際的な性格を帯びるのはなぜか

　人民大衆の自主性を目指すたたかいは国際的性格を帯びる。それは、人民大衆の自主性を目指すたたかいが国際的範囲で展開されるからである。言い換えれば、それが自主性を擁護する世界の全ての国、全ての民族と人民が共同闘争を展開する過程であるからである。
　また、帝国主義者が人民大衆の自主性を

抑圧する上で共通の利害関係を持ち、国際的に互いに連合することとも関連し、世界の被抑圧民族と人民の歴史的境遇と利害関係の共通性とも関連する。

64. 革命と建設において自主的立場を守るというのはどういうことか

社会的運動は人民大衆の自主的運動なので、人民大衆の自主性を擁護するためには、革命と建設において自主的立場を堅持しなければならない。

革命と建設において自主的立場を堅持するというのは、人民大衆が革命と建設で持ち上がる諸問題を独自の判断と決心で処理し、自力で解決していくということを意味する。

65. 自主的立場の本質的内容は何か

自主的立場はまず、人民大衆が革命と建設の主人としての権利を行使する立場である。

人民大衆が革命と建設の主人としての権利を行使するというのは、人民大衆が革命と建設で持ち上がる全ての問題を、自己の

独自の判断や決心によって、自己の利益に即して処理することを意味する。
自主的立場はまた、人民大衆が革命と建設の主人としての責任を全うする立場である。
人民大衆が革命と建設の主人としての責任を全うするというのは、革命と建設で持ち上がる全ての問題を自ら責任を持って自力で解決していくということである。

66. 思想における主体性の確立は、自主的立場を堅持するための原則においてどんな位置を占めるのか

自主的立場を堅持する上で思想における主体性を確立する問題は、優先的に提起される問題である。
自主的立場を堅持するためには、思想におけるチュチェ、政治における自主、経済における自立、国防における自衛の原則を貫徹しなければならない。
しかし、人間の全ての活動を規制するのは彼らの思想意識である。それゆえ、社会建設において勤労人民大衆の自発的熱意と

創造的積極性を余すところなく発揮させるためには、勤労人民大衆が革命の主人という自覚を持って革命闘争と建設事業に主人らしく参加するようにする問題、言い換えれば、思想における主体性を確立する問題から解決すべきである。

67. 社会的運動が人民大衆の創造的運動というのはどういうことか

社会的運動が人民大衆の創造的運動というのは、それが自然と社会を絶えず改造していく人民大衆の運動であるということである。言い換えれば、社会的運動は、人民大衆が自分の創造的能力で古くて反動的なあらゆるものを一掃し、新しくて進歩的なものを創造していく活動であり、闘争であるということである。

68. 社会的運動が人民大衆の創造的運動となる根拠は何か

それは、人民大衆が創造性を本性とする創造的な存在ということと関連する。

創造性を本性とする人民大衆は、あらゆる古いものを一掃し、新しいものを創造することを要求する。

あらゆる古いものを一掃し、新しいものを創造しようとする人民大衆の要求は、自主性に対する彼らの志向から提起される要求である。

人民大衆は、自己の自主的要求を実現するために、自然と社会を改造する創造的活動を絶えず展開する。

人民大衆は、自然と社会を改造する創造的能力を持っているため、自然と社会を改造する創造的活動を成功裏に繰り広げる。このように、社会的運動は人民大衆の創造的活動によって推進される。

69. 人民大衆の創造的運動はどんな特性を持つのか

人民大衆の創造的運動が持っている特性は何よりも、それが闘争を伴うということである。

人類史の全期間にわたって収められた全

ての社会的変革と進歩は、人民大衆の創造的闘争を通じてもたらされる。
　人類が全歴史的過程でなし遂げたあらゆる進歩と変革は、人民大衆の創造的闘争の結果である。
　人民大衆の創造的運動が持っている特性はまた、自分自身をもっと有力な存在に育てる過程であるということである。
　人民大衆は自然を改造し、社会を発展させると同時に、自分の創造的能力を培ってきた。
　人民大衆の創造的活動過程は、蓄積された創造的力を発揮していく過程であると同時に、創造的能力をより高い段階へと高めていく過程でもある。

70. 革命と建設において創造的立場を堅持するというのはどういうことか

　社会的運動は人民大衆の創造的運動であり、したがって、人民大衆は自然と社会を改造するたたかいで常に創造的立場を確固と堅持しなければならない。
　革命と建設において創造的立場を堅持す

るというのは、革命と建設で持ち上がる全ての問題を、人民大衆の創造的な力に依拠し、自国の具体的な実情に合わせて創造的に解決していくということである。

71. 社会的運動が人民大衆の意識的運動というのはどういうことか

それは、人民大衆の思想意識によって発生・発展する運動であることである。言い換えれば、社会的運動が思想的に目覚めた人民大衆によって展開され、人民大衆の思想精神力によって推し進められる活動であり、闘争であるということである。

72. 社会的・歴史的運動で自主的な思想意識はどんな役割を果たすのか

自主的な思想意識は、自己の運命の主人としての自覚であり、自己の運命を自ら開いていこうとする意志である。

自主的な思想意識は、社会的運動、革命運動で決定的役割を果たす。これは、自主的な思想意識が革命と建設において全ての

人々の役割を規定する基本的要因であることを意味する。

自主的な思想意識は、人間が正しい階級的立場と態度を堅持して、人民大衆の利益を擁護し実現するための闘争に立ち上がるようにし、人間が強靭な意志と闘争力を発揮して、革命運動を成功裏に開拓するようにする。

73. 革命と建設で人間の思想を基本とするというのはどういうことか

革命運動は意識的な運動であり、したがって、革命闘争と建設で常に人間の思想を基本としてとらえて進めていく原則を堅持しなければならない。

これは、思想的要因に決定的な意義を付与し、全ての問題を人間の思想意識の役割を強めて解決していくということを意味する。

思想的要因に決定的な意義を付与するというのは、人々の思想に第一義的な関心を払い、思想的要因に基づいて革命と建設の

他のあらゆる条件を整えていくということである。

思想意識の役割を強めて全てを解決していくというのは、革命と建設で持ち上がる全ての問題を技術実務的及び行政的方法によってではなく、人々の思想を動かす方法によって解決していくということである。

74. チュチェ思想は指導原則で何を明らかにしたのか

チュチェ思想は、革命運動で堅持すべき指導原則を全面的に解明している。

チュチェ思想の指導原則には、自主的立場を堅持する原則、創造的方法を具現する原則、革命と建設で思想を基本としてとらえていく原則がある。

75. 自主的立場を堅持する原則は何か

自主的立場を堅持する原則は、党と国家活動において自主性を堅持し、具現するための原則である。

この原則には、思想におけるチュチェ、

政治における自主、経済における自立、国防における自衛の原則を具現すべきであるという内容が含まれている。

チュチェ、自主、自立、自衛の原則は、人民大衆に革命と建設の主人としての地位を固守させる指導原則である。

76. 思想において主体性を確立するというのはどういうことか

思想において主体性を確立することは思想分野で自主性を具現するための原則である。

思想において主体性を確立するというのは、革命と建設の主人としての自覚を持ち、自国の革命を中心にして全てを考え、実践し、全ての問題を自らの知恵と力で解決していく観点・態度を持つようにすることである。

77. 思想において主体性を確立するのはなぜ必要なのか

革命と建設が人間の意識的な活動であり、革命と建設の成否が人間の思想によっ

て決定されるからである。
　思想において主体性を確立してこそ、政治における自主、経済における自立、国防における自衛の原則を成功裏に貫徹することができる。
　思想において主体性を確立してこそ、各国の党と人民が自国の革命と建設を、主人としての立場で責任を持って遂行することができる。

78. 思想において主体性を確立するためにはどうすべきか

　第一に、自主的な革命思想と自分の党の路線と政策で武装すべきである。
　第二に、自分のものに精通し、それを大事にして積極的に推し立てるべきである。
　第三に、高い民族的自尊心と革命的自負心を抱かなければならない。
　第四に、民族文化を発展させ、大衆の文化・技術水準を高めなければならない。
　第五に、事大主義をはじめあらゆる古い思想を排斥しなければならない。

79. 政治における自主の原則はどういうものか

政治における自主の原則は、政治分野で自主性を具現するための原則である。

政治において自主性を堅持するというのは、自国人民の民族的独立と自主権を固守し、自国人民の利益を守り、自国人民の力に依拠して政治を行うということである。

80. 政治において自主性を堅持するのはなぜ必要なのか

第一に、政治が社会生活で決定的意義を持つ分野であるからである。

第二に、政治的自主性は自主独立国家の第一の表徴、第一の生命であるからである。

第三に、革命と建設の全ての問題が直接政治に依存するからである。

81. 政治において自主の原則を貫くための要求は何か

第一に、自主的な政権を樹立しなければならない。

第二に、主体的な政治的勢力を整えなければならない。

第三に、自分の指導思想を持ち、自らの決心によって路線・政策を独自に決定し、貫かなければならない。

第四に、対外関係で完全な自主権と平等権を行使しなければならない。

82. 経済における自立の原則はどういうものか

経済における自立の原則は、経済分野で自主性を具現するための原則である。

経済において自立の原則を貫くというのは、他国に従属されず、独り立ちする経済を建設するということである。言い換えれば、自国の人民に奉仕し、自国の資源と自国の人民の力に依拠して発展する経済を建設するということである。

83. なぜ経済において自立の原則を貫かなければならないのか

まず、国の独立を固めて自主的に生きて

いくことができ、思想におけるチュチェ、政治における自主、国防における自衛を確固と保障し、人民に豊かな物質・文化生活をもたらすことができるからである。
　また、民族的不平等をなくし、民族の全面的な開花発展を遂げることができ、完全な平等と互恵の原則で国家間の経済的協力を拡大・発展させ、帝国主義者の経済的略奪を防ぐことができるからである。

84. 経済において自立の原則を貫くためにはどうすべきか

　第一に、経済建設で自力更生の原則を堅持しつつ、経済を多面的かつ総合的に発展させなければならない。
　第二に、経済を現代的技術で装備し、民族技術人材を大々的に育成しなければならない。
　第三に、自らの原料・燃料基地を強固に築き、対外貿易に大きな力を注がなければならない。
　第四に、発展する現実の要求に即して経

済指導と管理を改善しなければならない。

85. 国防において自衛の原則を貫くというのはどういうことか

国防における自衛の原則は、国防分野で自主性を具現するための原則である。

国防において自衛の原則を貫くというのは、自らの力で自国を守るということである。言い換えれば、個々の国の人民が自らの力で自国を守りうる強力な国防力を備え、国防建設と軍事活動上の全ての問題を自国人民の利益と自国の実情に即して解決していくということである。

86. 国防において自衛の原則を貫く必要性は何か

まず、国防における自衛が自主独立国家の基本的表徴の一つであるからである。

また、国防における自衛が国の政治的独立と経済的自立の軍事的保証であるからである。

87. 国防において自衛の原則を貫くためにはどうすべきか

第一に、自衛的革命武力を持ち、全人民的・全国家的防衛体制を確立しなければならない。

第二に、革命武力の政治的・思想的優越性を高度に発揮させ、主体的な戦争観点を持たなければならない。

第三に、自らの国防工業を建設し、後方を強化しなければならない。

88. 創造的方法を堅持する原則には、革命運動の特性がどのように反映されているのか

人民大衆の運命開拓のための闘争は、国と民族を単位として行われる。

歴史的に見ても、国と民族を離れた全人類的な革命とは事実上、あったことがない。

国と民族ごとに直面している具体的環境と条件もそれぞれ異なり、達成すべき闘争の目標、大衆の準備程度と具体的な思想・感情も異なるので、運命開拓のための人民大衆の闘争は徹底的に独自性を持ち、実情

に即して行われるようになる。

自らの革命勢力が準備されるにつれて、自己の独自の戦略・戦術を持ち、自己の要求と利益に即して自力で革命闘争を展開すること以外に、人民大衆の運命開拓のためのいかなる妙術というものもあり得ない。

現実的にどの国と民族の運命開拓史をみても、そこに自国の人民大衆の血と汗の痕跡はあっても、他国の力や他人の援助によって運命開拓の転換期を迎えた前例はなかったということは、それを実証している。

革命を行う上で、いかなる既存公式や紋切り型の方法論が別にあるものではない。

このように創造的立場を堅持する原則は、国と民族を単位として行われる革命運動の特性を正確に反映した原則であるため、人民大衆の運命開拓のための力強い武器となる。

89. 創造的方法を具現する原則にはどんな内容が含まれているのか

創造的方法を具現する原則は、人民大衆に依拠する方法、実情に即して行う方法を

内容としている。
　創造的方法を具現する原則は、党と国家活動、革命と建設の各分野において創造性を具現して、人民大衆に革命と建設の主人としての役割を果たさせるための原則である。

90. 人民大衆に依拠するというのはどういうことか

　人民大衆に依拠するというのは、人民大衆の力を信じ、彼らの創造力を引き出して、革命と建設で持ち上がる全ての問題を解決していくことである。

91. 革命と建設を人民大衆に依拠して推し進めるべき根拠は何か

　人民大衆に依拠しなければならないのは、人民大衆が革命と建設を推し進める決定的な勢力であるからである。
　革命と建設の成否は、人民大衆の創造力をいかに引き出すかにかかっている。
　人民大衆は革命と建設の主人であり、底知れない創造的能力を持っているので、人

民大衆に依拠してこそ、いかなる難問も成功裏に解決し、革命と建設を力強く推し進めることができる。
それゆえ、人民を信じ、人民から学び、人民を奮い立たせなければならない。

92. 人民大衆に依拠して革命と建設を遂行する上で重要なのは何か

第一に、人民大衆の要求と志向を反映した路線と政策を立て、それを大衆自身のものとし、大衆を一つの政治的勢力として結集しなければならない。
第二に、革新を妨げるあらゆる古いものに反対してたたかうとともに、大衆的運動を広く展開しなければならない。
第三に、革命的活動方法、大衆工作方法を確立しなければならない。

93. 革命と建設を実情に即して進めるべき必要性は何か

それは、革命運動が全ての問題を変化・発展する現実と自国の具体的条件に即して

解決することを求めるからである。

革命と建設においてどの時代、どの国にもあてはまる処方とはあり得ない。

あるなら、それは全ての問題を自分の頭で考え、自分の力で処理すべきであるということである。

一方、人民大衆の創造的活動はいつも具体的な条件と環境の中で行われる。

創造の担当者である人民大衆の思想・感情と準備程度も国ごとに異なり、創造的活動が繰り広げられる社会的・経済的及び物質的条件も国ごとにそれぞれ異なる。

それゆえ、革命と建設ではいつも全ての問題を自国の具体的条件に即して創造的に解決していかなければならない。

94. 実情に合う方法を具現するための要求は何か

まず、自国の革命の主体的・客観的条件を考慮し、それに合う路線と政策、戦略・戦術を規定し、既成理論に正しく対処すべきである。

また、時代の歴史的条件と自分の具体的実情に合う革命と建設の新しい原理と方途を積極的に探求し、他人の経験に批判的に、創造的に対処すべきである。

95. 思想を基本としてとらえる原則にはどのような内容が含まれているのか

思想を基本としてとらえる原則は、党と国家活動、革命と建設の各分野で人民大衆の意識性を高く発揮させ、革命と建設の主人としての人民大衆の地位と役割を保証するための原則である。

思想を基本としてとらえる原則には、思想改造の先行、政治活動の先行が含まれる。

96. 思想改造を優先させるというのはどういうことか

思想改造を全ての活動に優先させるというのは、人々の思想意識を改造し、彼らを真の社会的人間につくりかえていく活動を他の全ての活動に優先させるべきであるということである。

97. 思想改造を優先させる必要性は何か

第一に、思想改造が人々を真の社会的人間につくりかえる上で基本となるからである。

第二に、思想改造が人々の物質生活条件の改善や文化・技術水準の向上に比べて一層難しい事業であるからである。

第三に、思想改造が一つの深刻な革命であるからである。

98. 政治活動を優先させるというのはどういうことか

政治活動を優先させるというのは、他の全ての活動に先立って、人民大衆を党の路線と政策で武装させ、彼らの革命的熱意を呼び起こすことで、彼らが高度の自覚性と積極性を持って革命闘争と建設事業を成功裏に遂行するようにするということである。

99. 政治活動を優先させる必要性は何か

まず、大衆の創造力を革命課題の遂行に最大限に動員するための必須の要求であるからである。

また、社会主義社会本来の要求であるからである。

100. 思想改造と政治活動の相互関係は何か

思想改造と政治活動を優先させるのは、いずれも思想を基本とする原則の重要な内容をなしている。

思想改造と政治活動は、単なる行政・実務活動と違って、対人活動、人々の思想との活動である。

思想改造は、人々の思想領域において旧社会の遺物を最終的に一掃し、全ての勤労者を先進的な思想で武装させるための活動であり、政治活動は、人々を党の路線と政策で武装させ、彼らの政治的自覚と革命的熱意を呼び起こすことによって、彼らが高い自覚と積極性を持って革命と建設に参加するようにする活動である。

チュチェ思想問答

執　筆：車善一
編　集：松真成
翻　訳：金真赫
発　行：朝鮮民主主義人民共和国
外国文出版社
発行日：2025年5月

No. 250880313113

E-mail: flph@star-co.net.kp
http://www.korean-books.com.kp